

出会いを大切に

1月31日、「みらい」文化ホールで行田市人権教育合同学習講演会が行われました。

この講演会は、人権を尊重する精神などを養うことを目的に毎年開催しているもの。今年は、「出会いこそ生きる力」をテーマにイラン出身の女優サヘル・ローズさんを講師に迎えました。サヘルさんは、来日後にいじめを受けた経験などを赤裸々に告白。さらに「現在の自分があるのは大切な人との出会いがあったから。出会いを大切に、今を生きてほしい」と強く訴え掛けていました。来場者はサヘルさんの話を聞いたことにより、人と人とのつながりの大切さを改めて認識することができたようです。



舞と音楽、語りで幻想的な世界を演出

1月18日、商工センターホールで創作劇「古代蓮物語」が上演されました。

大和朝廷親衛隊の首長「オワケの臣」や鉄剣など、本市にまつわる人物や歴史遺産が登場するこの物語。脚本と演出は草薙馨さんが手掛け、華麗な舞と美しい音楽、そして幻想的な光の中で行われる語りを融合させながら、主人公である紅津子の恋心を表現しました。観客はすっかり物語の世界に引き込まれてしまった様子。独創的な世界を創り出した出演者らに、会場からは惜しみない拍手が送られていました。

睡眠と減塩で生活習慣病を予防

2月4日、商工センターホールで健康講座「良い睡眠で、からだも心も健康に」が行われました。

本市と健康づくり協定を締結しているファイザー株式会社の所属医師および保健師を講師に迎え、睡眠不足が体や心にさまざまな影響を及ぼし、生活習慣病につながることを説明。また、多量の塩分摂取も生活習慣病につながることから、塩分濃度が異なる3種類のみそ汁を飲み比べ、一番おいしいと感じたみそ汁の塩分濃度をチェックする講座も行われました。参加者は、「質の高い睡眠」と「減塩生活」を心掛けることで生活習慣病を予防し、健康で生き生きとした生活を過ごせることを学びました。



平常心で臨む

2月7日、中央公民館で第5回行田市少年少女囲碁大会が開催されました。

この大会は、日本の伝統文化である囲碁を通して、子供たちの思考力や集中力を高めるために行われています。48人の小・中学生が参加し、緊張することなく平常心で棋力別戦や13路盤戦に臨んでいました。また、対局だけでなくプロの棋士と指導碁を打つ時間も設けられるなど、子供たちは貴重な時間を過ごしていました。



厄を払って、福を呼び込む

2月3日、行田八幡神社で節分祭が行われ、子どもからお年寄りまでたくさんの方が訪れました。

今年は、特別ゲストとして追手風部屋の大翔若、大翔海、安彦の四力士が参加。大きな体の力士たちが登場すると歓声が沸き起こりました。「鬼は外、福は内」と、力士をはじめはかま姿の年男・年女が福豆をまくと、来場者は思いっきり両手を伸ばして受け取っていました。



認知症について理解を深める

1月23日、「みらい」文化ホールで介護予防講演会が行われました。「認知症にならないためには・認知症になったときには」と題したこの講演会は2部構成となっており、認知症予防の秘訣や成年後見制度の基礎知識などについての解説がありました。第1部で講師を務めた医師の松本光正さんは「日々の生活に感謝し、意識して笑うなどプラス思考でいることが大切」と強調。その他にも「頭を使う」「好奇心を持つ」といった認知症対策を、ユーモアを交えながら紹介しました。今や身近な症状となった認知症がテーマとあって、観客は熱心に講師の話に耳を傾けていました。



写真館

GYODA CITY PHOTO STUDIO



決勝大会で堂々と演舞を披露

1月24日、新宿文化センターで「第3回全国武将隊天下一決定戦一宴一決勝大会」が行われました。

日本一の武将隊を決める大会に、予選大会を見事突破した「忍城おもてなし甲冑隊」が出場。勇壮でユーモアあふれる演舞を、決勝大会の晴れの舞台上で堂々と披露しました。

結果は惜しくも「参加賞」。天下一の称号を得ることはできませんでしたが、決勝まで進出し、行田の魅力を全国に広く発信できたことは大きな成果といえます。これからは甲冑隊は、全力で行田をPRするとともに、最高の「おもてなし」で行田を訪れる観光客を出迎えることでしょう。

